



令和6年 明けましておめでとうございます

卯（うさぎ）年から辰（たつ）年になりました。右の写真は、年末にみんなの賑わい交流拠点コンパスで開催された個展、佐原張子作家の故鎌田芳朗さんの「うさぎ」と「辰」の張子です。鎌田さんは張子づくりに当たって、このような言葉を残しています。



『私は張子人形をとおして人の優しさを表し、争いのない平和への願いを込めて、作成しています。』

正月元旦に、能登半島で大きな地震が起こり、尊い命が奪われ、いまだ行方不明な方もいます。また、多くの方が被災しています。ここに哀悼の意を表します。今私たちができることは、「命」の尊さを思い、今をしっかり生きること、それが復興支援へとつながる一歩と思えます。そして鎌田さんが伝えるように、「平和」を願う思いを持ち続けることだと思います。

<全校集会で話したこと>

1 能登半島地震から

夏休み明け全校集会では、100年前の1923年に起きた関東大震災を振り返り、私たちにできることは昔のこと、他人事ではなく、自分事として受け止め防災意識を高めることを話しました。そして、今回は北陸地域の方々の大変な思いを受け止め、私たちの今を4つの観点から考えることを伝えました。

- (1) 学校での避難経路の確認 (2) 登下校の通学路での危険箇所や地域の安全な避難場所の確認
(3) 香取市総合防災マップ（ハザードマップ）の確認 (4) 自助、共助について

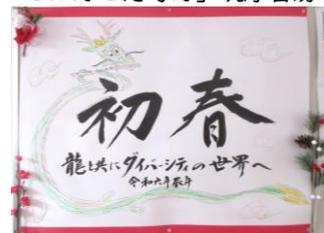
2 十二支の覚え方から

12の干支（えと）を覚えるのに、私たちは語呂合わせなどして、12のかたまりを自分なりに「意味づけ」しているのではないのでしょうか。「記憶力がよい」人は、入ってくる情報をあとから思い出しやすい形で記憶できる技（スキル）を持っている人なのかもしれません。ただ「覚える」ことが「学ぶ」とは限らないことを忘れないようにしたいですね。

参考資料：今井むつみ著「学びとは何か」岩波新書、今井むつみ著「親子で育てることば力と思考力」筑摩書房

3 今年への思いについて

龍の目のごとく、高い位置から俯瞰（ふかん）してみる
⇒物事を広い視野でとらえ、多様（ダイバーシティ）な世界で自分の力を発揮し、いろいろな人と共に生きていくことができる、そんな人になれるよう一緒に学校生活を送っていきましょう。



新年の抱負発表

各学年から3名が学級を代表して、新年の抱負を発表してくれました。

1年生からは、部活動で練習の質をあげること、勉強面では毎日コツコツと進めること、提出期日を守る、板書だけではなく大切なポイントも加えて、後で見返したくなるノートづくりを心がける、友達関係では他学年の人ともかかわっていききたいと意気込みを話しました。

2年生からは、辰年は活力が旺盛になり、形を整えてく年、生活リズムを崩さず健康を意識すること、時間の使い方を見直すこと、部活動では総体まであと半年、練習を休まず、チャンスを逃さず、ネガティブ思考からポジティブ思考にしていきたい前向きな話がありました。

3年生からは、高校生になるにあたり、受験期の今、「自分を変える」を目標に、これまでできていなかったことを見直すこと、学級副会長という立場としてしっかり学級をまとめることなど決意を発表しました。

